三田市高平地区

豊かな自然環境と温かい「人環境」がある高平で、
里山ライフを楽しむ。

　大阪・神戸のベッドタウンというイメージが強い三田市だが、人口の 7 割が集中するニュータウン以外は山林や田畑が広がり、都市と農村、２つの顔を併せ持つ田園都市だ。

　今回訪れたのは、三田市北東部に位置する人口約 3,000 人の高平地区。西宮市からこの地区の酒井に移住し、NPO 法人里野山家（さとのやまが）を設立された、佐藤秀一さん・英津子さんご夫妻に、三田市高平地区の魅力と、お二人が実践している循環型の里山生活について伺った。

循環型生活で地球環境を守りたい！

　宇宙ステーションの生命維持装置に関わる仕事をしていた秀一さんは、自分たちが住む地球もまた有限空間であり、宇宙ステーションと同じように循環が大切だと気がついた。

　自然エネルギーを利用した循環型の生活モデルを作るため、10 年間も移住先を探し回ってたどり着いたのが、ここ酒井だった。
「古民家で、田畑、山林、川の流れが近くにあり、人工的な建物があまり無くて景観が美しい場所、という条件を全部満たしていたので 1 秒で決めました」と秀一さんは笑う。

仲間を増やし、ご近所を巻き込み、みんなで作る里山生活
　薪でお風呂を焚き、ロケットコンロでご飯を炊き、薪ストーブで暮らす循環型の暮らしが始まった。

「やっているうちに、どんどん人が集まってきたのです」と英津子さん。自然エネルギーに興味がある人、子どもに無農薬の米や野菜を食べさせたいお母さん、おいしい野菜を作ってみたい高齢者…。里山整備や野菜作り、醤油作り、養蜂など数々のグループができて、それぞれのペースで活動し、講座やワークショップも頻繁に行っている。講習会で広めているロケットストーブや自然エネルギーの発電は、実際に台風で集落が停電した際に役立ち、ご近所の方たちに感謝された。

自然環境が素晴らしい。でも、もっと素晴らしい「人環境」

移住して良かったことは、家に居ながら、四季折々の景色や風物詩を楽しめること。

「でも何よりも”人環境”がいいのです」とお二人は言う。それまで移住者がいなかった酒井の人たちが、突然やってきた自分たちを快く受け入れてくれた。野菜を分けてくれたり、会合に呼んでくれたり。また、同志と呼べる NPO の仲間がたくさんできた。年齢とともに衰える体力に不安は感じるが、助け合えるメンバーがいるので心強く、毎日が楽しい。

私たちがいるからここに来て！

　移住の手伝いをする、三田市の「さんだ住まいるチーム」としても活動しているお二人に、高平地区のおすすめポイントを聞いた。

　ここが一番！と言って住んでくれる人なら誰でも来てほしいが、自然が身近な里山環境は、特に子育て世代の家族におすすめ。野外活動センターなど親子で遊べる場所も多いし、有名な高平米をはじめ、おいしい食材もたくさんある。

「でも何より、私たちがいるからここに来て！」と、英津子さんの人懐こい笑顔が弾ける。

確かに、ご夫妻のような頼れる移住先輩の存在は大きい。それも移住先を決める際の大事なポイントではないだろうか。

キャプション

＜220110_snd_069＞
理想の環境を三田市高平地区の酒井でついに見つけた

＜220110_snd_054＞
秀一さんは、重工業の会社で宇宙ステーションの生命維持装置に関わる仕事をしていた

＜220110_snd_136＞
里山の環境を守るのは、NPO 里野山家の重要な仕事

＜220110_snd_458＞
野菜づくりも、やりたい人が集まって、それぞれのペースでやっている

＜220110_snd_351＞
ロケットストーブの作り方や使い方の講習をしている

＜220110_snd_499＞
仲間がいるから毎日が楽しい、と英津子さん

＜220110_snd_413＞
お二人の暮らしに興味をもった人たちが、どんどん集まった

＜220110_snd_401＞
子育て世代のご家族におすすめ、と秀一さん

＜220110_snd_391＞＜220110_snd_291＞
子供の頃は体が弱かったという英津子さん。今はとても元気

＜220110_snd_527＞
私たちがいるから移住してきてください、と笑顔のお二人